



議会運営委員会 視察報告

平成30年5月9日～10日に先進地視察として、埼玉県所沢市議会「議会評価について・予算特別委員会の設置について」、神奈川県茅ヶ崎市議会「決算における事業評価の実施について」を視察しました。



所沢市議会 視察の様子

○所沢市議会

平成25年から議会による政策評価を行ってきた。その発端となったのは、基本条例制定後、議会事務局が予算獲得のために議会活動の評価表を作成することはいかがなものかと議員が気づき、議員が話し合い、自ら作成することになったからだろう。

具体的には、「市民参加及び市民との連携」、「議会報告会の開催」、「広報の充実」、「議員間の議論の活性化」などの項目について議会が合議の末、○×形式で評価し、報告書として市民に公表することになった。一方、全国ニュースになった小学校へのエアコン設置に関する住民投票を実施するなど、住民の市政参加の機会が確保されている。そのほか、

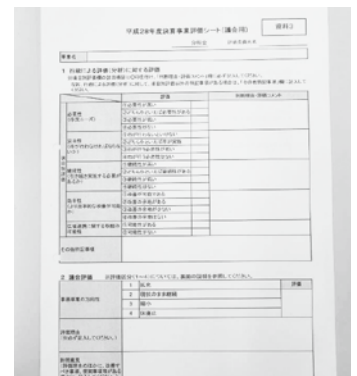
市側が地域電力会社を設置するにあたり、委員会で否決、本会議にて可決した例があるなど、市長と議会は、いい緊張関係にあると感じた。

予算の審議では特別委員会を設置し、委員のメンバー構成や委員会の運営について試行的に取り組みが行われており、予算の修正など行政に対して議会側の監視機能を果たしていると感じた。

○茅ヶ崎市議会

早稲田大学マニフェスト研究所が行う議会改革度ランキングにおいて、神奈川県内で1位となっており、全国でも議会改革が進んでいる議会の一つである。中でも、決算認定の事業評価では、個別の施策や事業を評価し、次年度予算へ課題や要望を反映させる取り組みを平成21年度から実施していた。

29年度は前年度決算事業評価特別委員会を正式に設置。4分科会が事業を選定、評価する体制とし、担当課からの事業評価に対応したシートを作成し、議会、議員の視点から8日間に渡って聞き取り、審査し、評価結果を決定。これを市長へ提出した。結果として、評価された事業は予算が拡大されたそつだ。



茅ヶ崎市議会 決算事業評価シート

具休例として、28年度決算で消防団連携強化事業を拡充とした結果、29年度予算、107万円から147万円と増額・拡充されたとのこと。

--*-*-*-*-*-*

所沢市、茅ヶ崎市ともに本市の人口の4倍から6倍大きな市であり、一概に比較はできないが、議会のチェック機能を高める手段として両市とも議会による行政の施策評価を取り入れていることが共通している。

選挙で選ばれた議員が、行政の内部評価に対して、市民目線で善し悪しを示すことは行政も無視できない。議会もまた市民からの評価を4年に1回の選挙で受ける。両市議会議員の説明からは、そのことを強く意識している印象を受けた。

行政の施策評価や議会の自己評価さらに行政への監視など議会のあり方については、塩尻市議会における大きな課題であると感じた。